

ファストファッション

3年3組7番 梶谷碧里

Keyword: 「環境汚染」「流行」「認知度」「ネットショッピング」「リサイクル」

1. はじめに

私はファストファッションについて環境汚染をテーマに探究活動を進めてきた。以前からファッションに興味があり、自分の好きなことを探究のテーマにしようと考えた。偶然見たファストファッションに関連するニュースで、山積みになった衣類ゴミやそれによる海洋汚染があることを初めて知り、驚くと同時に悲しい気持ちになった。また、ファッション業界は第二の汚染産業であること、人間だけでなく環境や動物にも悪影響を及ぼしていることを知り、この問題を解決するために自分にできることを探して、少しでも改善できたらいいと思った。ファッションは私たちにとって、とても身近なアイテムだが、ファストファッションが引き起こしている諸問題については、あまり認知されていないと感じたので、皆んなに知ってほしいと考えた。

2. 序論

ファストファッションとは、最新の流行をいち早く取り入れた、低価格で程よい品質のファッションのことを言う。ファストファッションを提供する企業には例えば、SHEIN、UNIQLO、GUなどがある。国連貿易開発会議(UNCTAD)によると、ファッション業界が世界で第2位の汚染産業とされている。

高校生の身近にあるブランドにはファストファッションが多く、入手しやすく人気である。一方で、世界中で様々な問題が発生している。その中でも、特に私が注目したのは環境問題である。

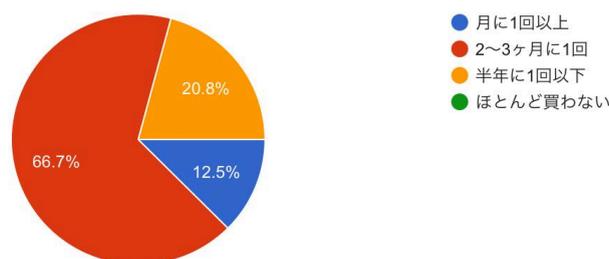
環境問題は主に、海洋汚染、大気汚染、売れ残りなどの衣類ごみが挙げられる。洋服の製造過程、家庭の洗濯、ドライクリーニングなどで大量の水が使われる。環境省は、洗濯時にマイクロプラスチックやマイクロファイバーが海洋へ流出していると指摘している。また、世界の工業用水汚染の20%は、繊維の染色と処理に起因しているという。現在、石油などの原料を化学的に合成して作られる合成繊維の製造が、ファストファッションの発展とともに増えている。合成繊維の代表的なものには、ポリエステルやナイロン、アクリルなどがある。また、製造には、大量の化学薬品や有害物質を使用する。それらが大気中に放出され、大気汚染に繋がることもある。現在、日本で販売されている衣料品の98%は海外からの輸入品である。そのため、輸送だけでもかなりの量のCO2が発生する。温室効果ガス(GHG)排出量は合計12億トンのCO2に相当し、国際航空業界と海運業界を足したものよりも多い量を排出している。天然繊維は廃棄され、最終的には自然に還ることが可能だが、合成繊維はゴミとしてそのまま残ってしまう。また、合成繊維は扱いやすい反面、処分に手間がかかってしまい、分解するのに約200年もかかってしまうと言われている。

これらの問題に対してファストファッションブランドは、環境に配慮した取り組みを実施している。UNIQLOでは、環境負荷の低減、リサイクルとリユースの推進、社会貢献などの活動がされている。気候変動への対応として、パリ協定の目標を尊重し、店やサプライチェーン全体で温室効果ガスの排出削減を行っている。水資源の管理においては、ジーンズの仕上げ加工時の水使用量を従来比で最大99%削減する「BLUE CYCLE JEANS」を開発した。さらに、生産過程での生地が無駄を省いて資源を有効活用している。また、全商品を回収しリサイクルやリユースを行う「RE.UNIQLO」と呼ばれるプログラムなどもある。このプログラムにより、2006年からは不要になったユニクロの服を店舗で回収し、世の中の必要な人々に届けているのである。

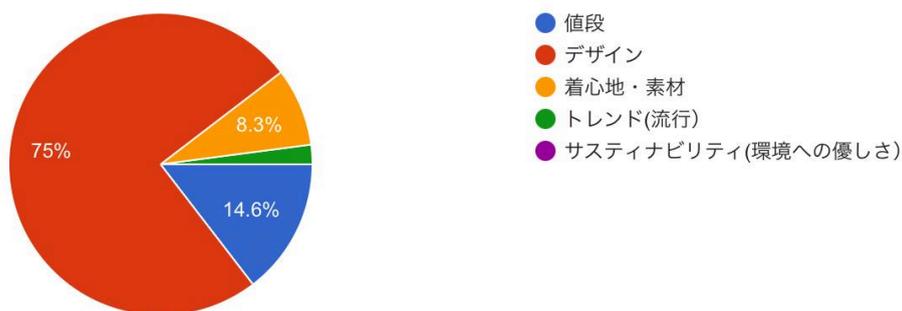
3. 本論

ユニクロの取り組みの調査や、SNSを活用したアンケート調査などを通して、ファッションと環境問題の関係や環境への意識について明らかにすることを目的として活動した。まず最初に、ファッションに関わる企業のサステナビリティへの取り組みをより深く学ぶために、UNIQLOと無印良品にインタビューを依頼するメールを送った。インタビューでは、売れ残りや回収品の処理方法、リユース・リサイクルの実例、消費者の利用傾向、そして、社員や企業としての服の活用の工夫について尋ねたいと考えていた。しかし、企業の都合により実現には至らなかった。そのため、公式ホームページの情報を活用し、同様の内容を調べることで探究を進めた。この経験から、探究活動では計画どおりにいかない場合でも、工夫して代替案を探ることの大切さを学んだ。

次に、中学生や高校生がファッションに対してどのような意識を持っているのかを知るために、アンケートをとった。Instagramのストーリー機能を使って、48人に参加してもらった。内容は「消費行動」「処分方法」「環境意識」の3つに分けて設定した。まず、「消費行動」では、よく購入するブランドや購入頻度、服を購入する際に重視している点について尋ねた。次に、「処分方法」では、着なくなった服をどのように扱っているか、また、着られなくなった服をどのように活用しているかを調べた。さらに、「環境意識」に関しては、ファストファッションによる環境汚染についての認知度、服のリサイクルやリユースについての認知度、企業の環境への取組に対する理解度、環境に配慮された商品を購入しようと思った経験の有無、リサイクルやリユースへの関心度について質問した。



その結果、上のグラフより、服を購入する頻度については、回答者の多くが頻繁に服を購入するわけではなく、比較的落ち着いたペースで消費している傾向が明らかになった。また、よく利用するブランドは、GUやUNIQLOが最も多く挙げられ、次いでSHEINやGRLなどの通販ブランドが目立った。高校生にとって安価で入手しやすいブランドが中心であることがわかる。



また、上のグラフにより、服を購入する際に重視する点では「デザイン」が約4分の3を占め、最も大きな要素となっていることがわかる。「値段」や「着心地」を挙げる人は少数であり、見た目や流行を重視して服を選ぶ傾向がある。着なくなった服は「部屋着にする」、「人にあげる」と答えた人が多く、再利用の意識が見られた。一方で、リサイクルやフリマアプリなど、環境に配慮した処理方法を選ぶ人は少なかった。

服のリサイクルやリユースについては、「知っているが実際にやったことはない」と答えた人が多く、関心はあるものの、行動にはつながっていないことがわかった。ファストファッションによる環境汚染も、「なんとなく聞いたことがある」という回答が多く、理解が浅い傾向が見られた。ま

た、環境に配慮した服を選ぼうとした人は少なく、リメイクやリユースにも興味はあるが、実践している人は少なかった。さらに、ファストファッションブランドの環境への取り組みを知っている人も少なく、企業の情報が十分に消費者に届いていない現状が明らかになった。

最後に、服を捨てずに活用する方法を問うと、沢山のアイデアが得られた。リメイクして使う、寄付する、売る、材料として再利用するなどがあった。

4. 結論

以上より、探究活動からファストファッションが環境に悪影響を与えていること、そして、多くの人がその問題を十分に認識していないことがわかった。特に、価格やデザインを重視して服を選ぶ人が多く、環境に配慮した行動にはまだつながっていない現状が明らかになった。しかし、企業では環境負荷を減らすための取組がなされており、リサイクル活動や再利用などの工夫が広がっている。今後の課題は、消費者である私たち皆が、「買う」、「捨てる」だけでなく、「長く着る」、「再利用する」という意識を強く持つことが重要だと感じた。また、学校やSNSを通じて、環境問題への関心を高める取り組みも必要だと考える。

5. おわりに

この探究活動を通して、私自身のファッションに対する考え方が一変した。これまでの私は、デザインや価格を重視していたが、今はこの服がどのようにつくられて、どんな影響を与えているのかにも考えが及ぶようになった。これからは、購入した服をできるだけ長く大切に着たり、リサイクルや寄付に提供したりして、環境にやさしい行動をとっていきたい。また、この学びを周囲の人にも伝え、皆んなでより良い社会をつくっていかれたらと思う。

6. 参考文献・出典

環境省.「ファッションと環境」『SUSTAINABLE FASHION これからのファッションを持続可能に』. 2025年7月1日

https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/j-gbf/committee/bcwg_003/pdf/document_2.pdf.

ユニクロ.「ユニクロとSDGs」『UNIQLO Sustainability THE POWER OF CLOTHING』.2025年7月1日 <https://www.uniqlo.com/jp/ja/contents/sustainability/sdgs/index.html>.